資料１

博覧会関係資料（あま市七宝町伝来）

＜概要＞

員　　数　　一括（55 件）

時　　代　　明治時代～大正時代

明治政府は殖産興業政策の一つとして、美術工芸品の輸出拡大を積極的に進めた。その一環として、現あま市七宝町や名古屋市で制作された七宝(※1)は、欧米で開催された万国博覧会や、国内の内国勧業博覧会(※2)などに出品された。

本資料は、あま市七宝町に伝えられてきた、国内外の博覧会出品の賞状、メダル 49 件と博覧会関係書類 6 件である。

賞状とメダルは、おもに愛知県海東郡遠島村（現あま市七宝町遠島）の七宝工であった林小傳治(※3)と林喜兵衛(※4)が博覧会へ出品した際に贈られたものである。出品した博覧会は、海外の博覧会は、1885（明治 18）年のニュルンベルク金工万国博覧会、1889（明治 22）年のパリ万国博覧会、1893（明治 26）年のシカゴ・コロンブス万国博覧会、1926（大正 15）年のフィラデルフィア万国博覧会などであり、国内は 1890（明治 23）年の第 3 回から 1903（明治 36）年の第 5 回までの内国勧業博覧会などである。

博覧会関係書類は、1889（明治 22）年のパリ万国博覧会に関する遠島村の七宝窯元の出品作品一覧のほか、1904（明治 37）年のセントルイス万国博覧会への出品一覧、国内外の博覧会への出品願書などである。

本資料により、1880 年代から 1920 年代にかけて国内外で開催された博覧会における、当地の七宝の出品と評価の様子を具体的に知ることができる。また、資料に記される窯元の状況から、地方と殖産興業を進める政府との関係を読み解くことができる。当地の七宝と博覧会に関わる、貴重な歴史資料である。

(※1) 七宝　　金属の素地に釉薬等で文様を表現した工芸品。日本の近代七宝は、天保年間（1830～1844）に尾張藩士の梶常吉（かじ･つねきち、1803～1883）によって創始された。生産地は、はじめは名古屋で、やがて現あま市七宝町へ広がった。

(※2) 内国勧業博覧会　　1877 年から 1903 年までに、東京で３回、京都・大阪で各１回、政府主導により国内の産業振興を企図して開催された。

(※3) 林 小傳治　　1831 年生まれ－1915 年没。幕末期に初めて七宝製品の輸出に取り組んだと伝えられる。

(※4) 林 喜兵衛　　1848 年生まれ－1931 年没。安藤七宝店（名古屋市）の製品制作も手がけた。

パリ万国博覧会（1889 年）賞状　銀賞　林小傳治　　80.5cm×64.0cm
　あま市七宝焼アートヴィレッジ収蔵

第三回内国勧業博覧会（1890 年）賞状　褒状　林小傳治　　71.0cm×54.5cm
　あま市七宝焼アートヴィレッジ収蔵